

■ 全体講評

今回実施されたプロジェクトマネージャ全国統一公開模試の午後 I の記述式問題は、やや難しかったものと思われま。短文の記述式解答の問いの数が多いという最近の本試験の特徴にならって出題していますが、今回 60 点以上得点できた人は自信をもってよいと思います。

本試験では、解答の影や筋が全く見当たらないような難問奇問の類の問題は、まず出題されることはないと考えてよいと思います。したがって、午後 I の記述式問題の解答に当たっては、一般的な専門知識を前提に、問題や設問の意図や説明を十分に理解して解答を導いていくことが求められます。どうしても問題文や設問に手掛かりが見つからないときに初めて、一般的知識による解答を考える必要があります。つまり、問題文や設問に解答制約や手掛かりは必ずあると考え、適切に把握すれば、必然的に正解へたどりつくことができるのです。この手順に従わず、例えば、一方的な思い込みや自分自身の経験にこだわった解答では不正解になってしまうので、設問要求や問題の意図するところを読み取り、確実にいえるレベルの表現で解答していくことが重要となります。

不適切な解答の中で多いのは、解答のポイントや方向性は間違っていないのに、設問の考えや趣旨からずれている解答、要求事項や指示に従っていない解答といえます。問題文や設問に書かれている記述やキーワードは大きなヒントであり、解答の手掛かりの一部であることをしっかり理解した上で、設問要求に沿って適切な表現で解答をまとめるようにしましょう。「そこまで限定して解答できるのだろうか」と感じられる強引な解答表現や、いろいろなことを列挙してどれかが正解に引っかかることを期待するような解答は、採点者に対して心象が悪く、結果として正解とならないおそれがあります。注意しましょう。

なお、今回から午後 I 試験では全 3 問の出題から 2 問を選択解答する必要があります。答案用紙に選択する問題を記すわけですが、きちんと 2 問選んでいない人、丸を付ける欄を間違えて採点欄に丸を付ける人がかなりいらっしゃいました。これは解答以前の問題なので、くれぐれも注意して、指示どおり確実に問題選択することを心掛けてください。

解答方法の注意点として、とにかく問題文や設問をよく読むことが挙げられます。解答のヒントやそのものを書いてある場合がありますので、それを無視した独善的な解答は避けてください。今回は、漢字の間違いや略字、問題文や設問と国語論理的にずれた解答が見られまし

た。また、単語レベルで説明不足の解答表現も見られました。特に、設問要求に解答表現がきちんと論理的に合致しているかに注意してください。

最後に、論文系の区分の午後 I 試験は、詳細なその試験区分の専門知識がなくても、問題文の文脈と一般常識で解答が類推できる場合も少なくありません。PM 区分では、受験されたほとんどの皆さんが、何らかの開発プロジェクト業務に携わっていると思います。直接の PM 経験がなくても、自身の業務経験と合わせて、最後まで、あきらめずに必ず合格するという強い意識をもって臨むようにしましょう。

<午後 I >

問1 経理関係システムの再構築における変更管理

【採点基準】

【設問1】

- (1) 解消の時期は、「外部設計」と「初期」を答えて 2 点。留意事項は、「要件」と「文書化」を答えて 4 点。
- (2) 理由は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。変更内容は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。変更基準を決める趣旨の解答も正解。
- (3) 理由は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。変更内容は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。

【設問2】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。
- (4) 解答例の解答のみ 2 点。

【設問3】

- (1) 開発チームは、完答のみ 2 点。リスクは、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点。
- (2) 開発チームは、完答のみ 2 点。修正内容は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。

【講評】

食品卸業者のシステム再構築を題材にした変更管理

に関する問題でした。題材となるシステムの業務内容は全く問われず、設問で問われた内容はいずれも変更管理の方法に関する頻出の内容と思われます。ただし、問題文の文脈や設問の趣旨をよく踏まえて解答する必要があります。この点でやや難しかったと思われます。選択した人は多かったのですが、なかなか得点を伸ばせない状況がうかがえました。

設問 1(1)の解消の時期は、工程と段階を明確に答える必要があります。根拠がはっきりしないまま限定的な表現をする解答がかなり見られました。留意事項は、「要件の文書化」の趣旨をもって正解としています。「要件を決定する」、「顧客と合意する」といったことは、留意事項ではなく、変更のための必要な事項です。注意してください。(2)の理由は、「変更規模」の「判断基準」の不明確さをポイントとして正解にしています。変更内容は、解答例のほか、「変更規模の尺度を決める」趣旨の解答も正解としています。(3)の理由は、「外部設計終了時」にだけ「再見積り」することをポイントとして正解にしています。変更内容は、必要に応じて再見積りすることを追加する趣旨をポイントとして正解にしています。

設問 2(1)は、変更の影響について適切に表現していれば正解です。(2)は、「ほかのサブシステム」がポイントとなります。「システム全体」や「システムの品質」といった解答は、この点があいまいで不適切な解答です。注意しましょう。(3)は、「必要時に変更管理委員会の開催を行えるようにすること」がポイントとなります。ここでも内容を限定しすぎた解答が見られました。注意しましょう。(4)は、問題文の表現に準拠する必要があります。確実に解答するには、問題文の表現に準拠できるものは準拠することが大切です。この点を重視し、この問いは厳しく採点しました。

設問 3(1)は、開発チームについては完答のみ正解です。リスクについては、解答例の趣旨を表現していれば正解です。この問いの正答率は高かったです。(2)も、開発チームについては完答のみ正解です。修正内容については、「緊急時」の「変更管理」プロセスやルールを定めることをポイントとして正解にしています。

問2 アーンドバリューマネジメントの導入

【採点基準】

【設問1】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各7点。

【設問2】

解答例の解答のみ4点。

【設問3】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。
- (4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点。

【講評】

車載搭載機器メーカーにおけるシステム開発プロジェクトでのアーンドバリューマネジメント (EVM) を題材にした問題でした。アーンドバリューについては、しっかり導入している企業もあれば、旧態依然の現場も相当数見られるという現状を反映してか、選択した人は少なかったようです。定量的なプロジェクトマネジメントに不慣れな人は、敬遠されたように見受けられます。本問は、計算よりも文章記述解答が多いため、やはり EVM の経験がないと解答が困難だったものと判断します。

EVM の知識を踏まえて、問題文の記述の中で言える範囲で解答することが重要で、自分自身の経験にとらわれて問題文の記述と逸脱した解答も散見されました。問題文に従ってきちんと解答しないと得点が伸びないので、適切な解答を確実に探していくことが求められます。

設問 1(1)は、「個々のタスクの所要期間の長さ」がポイントとなります。(2)は、「レビューをタスクから切り出すこと」、(3)は、「遅れを SPI を参考に観測し対処すること」がそれぞれポイントとなります。ポイントを押さえた解答を心掛けてください。

設問 2 は、定量値を解答する設問で、別解はありません。できなかった人は、解答の手順をよく確認しておきましょう。

設問 3(1)は、「SPI を用いた傾向分析」、「進捗遅れの拡大確認」が解答のポイントとなります。「SPI」をしっかりとらえて解答しましょう。(2)は、解答例の趣旨を解答すれば正解です。正答率は高かったといえます。(3)は、少々何を解答すべきか迷ったと思われ、できはよくありませんでした。下線及び周辺の記述をよく見て解答しましょう。(4)は、「A チームの作業がクリティカルパス」をしっかりとり言及して正解にしています。単にスケジュールがタイトであるという趣旨では不適切ですので、注意してください。

問3 ソフトウェア開発の品質管理

【採点基準】

【設問1】

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各5点。

【設問2】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

【設問3】

- (1) a は解答例のみ2点。判断した理由は、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し4点。

【講評】

スーパーマーケットチェーンの販売管理システムの開発を題材とした品質管理の問題でした。一部解答が考えにくい問いも見られますが、ほかの2問と比べて若干取り組みやすかった感があります。

設問1(1)は、「中核の主任」が不在ということでの戦力低下を説明する必要があります。単に人材の不足をいっている場合は、3点にしています。(2)は、「並行作業」が解答のポイントになります。これについて明示せず暗示的な場合は、3点にしています。(3)は、少々解答しにくかったようです。解答例の趣旨をきちんと解答して正解です。

設問2(1)は、何を解答すべきか分かりにくい問いです。サブシステム Y が大規模で重点監視すべきことをしっかり解答しましょう。問題文をよく見て解答することが求められます。(2)は、二つの解答ポイントを一緒にしてしまった解答が多く見られました。この場合、丸は一つにしています。二つ解答するのですから、二つに分けて解答しましょう。(3)は、「A社案件の経験の乏しさ」が解答のポイントです。この点の表現があまい場合は、3点にしています。

設問3(1)は、a は比較的よくできていました。判断した理由は、「摘出欠陥数」が「基準値」外であることがポイントです。これが揃って正解にしています。(2)、(3)は、いずれも比較的よくできていました。解答例の趣旨を適切に表現できていれば正解です。表現があまい場合、半分の得点としています。

記述式の解答は、問題文を踏まえて「確実にいえるレベルの表現で」解答をまとめることが大切です。また、一般的でない表現や稚拙な表現は避けて、よりプロフェッショナルな表現を心掛けてください。そうすることが得点力を高め、解答の実力を養っていくことにつながります。

なお、問題の選択は、合格するための重要な要素です。今回からは、3問から2問選択ですので、言い換えると「どの1問を捨てるか」ということとなります。実際の問題の難易度は取り組んでみないと何ともいえませんが、問題文のテーマやドメイン、設問の解答のしやすさなどを目安に、迅速かつ適切に問題選択を行うようにするとよいでしょう。

以上